



中央社保協 News

「いのち・暮らしもれ—安全・安心の医療・介護を」大運動推進中

2015年11月17日
〈発行〉
中央社会保障推進協議会
TEL 03-5808-5344
第15-08号

新署名「社会保障は国の責任です」

巣鴨駅で
署名行動

ハガキ署名を読み、届けてくれた人も

12月14日、JR山手線巣鴨駅前前で新しい国会請願署名で宣伝行動を行いました。住江・野村・寺川代表委員をはじめ6団体15人が参加。1時間の行動で50筆の署名が集まりました。

「4月から介護報酬が引下げられ、経営難で事業所が閉鎖、利用者が今まで通りのサービスを受けられなくなっている」と事業所訪問調査の結果を報告し、改善への署名の訴えを立ち止まって聞き入る男性や「保険料が高い。医者にかからないようにしている」「上がるのは税金ばかり。介護職員の給料を上げて職員を増やして」など、署名を取りながらの会話も弾みました。ハガキ入りティッシュの受け取りも良く、



行動終了後、「新署名」推進を確認しあって記念撮影

自宅へ帰ってハガキを読んだら「これは重要なことだ」とまた駅まで署名をして届けてくれた人もいました。全国、津々浦々で新署名を大きく広げましょう!

介護・認知症なんでも無料電話相談 「まとめ」を記者発表

12月14日、厚労省記者クラブで「認知症の人と家族の会」東京都支部の大野代表、千葉県社保協の藤田事務局長、中央社保協から山口事務局長・前沢事務局次長が参加し、「電話相談」で明らかになった深刻な介護の実態を告発し、改善を求めました。相談では「有料老人ホーム入所の82歳妻。月42万円かかりこの先どうしたらよいか」（東京・男性）、親の介護と仕事の両立ができず「仕事か介護か」と苦悩する声も寄せられるなど、「介護の社会化」といわれながら家族に大きな負担が強いられている深刻な実態を紹介しました。ご協力いただいた「認知

症の人と家族の会」からも「電話相談から見える変化」（1982年と2014年の比較）について報告されました。

戦争法廃案へ！高齢者の暮らしを守れ！ 厚労省前座り込み行動スタート

12月16日正午、老地連と高齢者運動全国連絡会は、座り込み行動を開始、スタート集会では「1998年以来続けてきたこの行動を絶やすことはできない！平和でいのち・くらしを守る政治の実現へがんばろう！」と主催者が決意表明しました。国会からは12人の日本共産党国会議員が参加し、ともに戦う決意を述べ、中央社保協からは山口事務局長が連帯の挨拶を行いました。座り込みは18日正午まで続けられます。